

内面側ツバ部表示方法の開発

外面側の汚れ防止対策について

シリコンゴムは、静電気を発する特性を持っているため埃を呼び込みます。汚れた手や油の着いた手袋でシリコンゴム製品をつかむと汚れが製品に染み込み取り除くことができなくなります。特に、外面側に雨水や排気ガスおよび砂埃等が付着しますと、じわじわと汚くなっていきます。従って、ツバ部分には汚れ防止加工を施すことをルール化しております。

株式会社 K・S・マスターズ

住所：東京都大田区南馬込3-7-2

電話：03-3778-2892

内面側の汚れ防止対策について

箱桁の内面側はほとんど密閉状態になっていますので埃等が舞い上がる心配もなくゴム製品が汚れといった必要は全くありません。では、なぜ発注図面に下図のような図面が示されているのでしょうか。その経緯について以下に説明します。

両ツバに汚れ防止加工を施すといった開発当時の経緯について

腹板や下フランジに明けられた架設足場用孔の閉塞作業は、内面側から行うことを基本としております。シリコン栓は、箱桁タイプにも板桁タイプにも適用できるようにしておりますが、外気に曝されるツバ面は「汚れ難い特殊な液」を付着させ製品をガードしますが、薄暗い箱桁内ではツバ部分の汚れ防止加工の見分けができないといった問題がありました。そこで「両ツバ面には汚れ防止加工を施す」といった考えが開発当時出来上がりました。しかし、この汚れ防止加工液は高価であること、および加工工程に時間がかかること、等から問題はありました。このことから、指先でつまむ部分に何らかの表示方法ができれば外面側のツバだけに汚れ防止加工を施せば良いこととなります。なお、板桁タイプは孔部からの風通し効果が良いということから孔部は塞がないと結論付けられました。

内面側ツバ面に窪み表示するための製品開発

下図に示すように指先でつまむ部分に何らかの細工をしておけば常に製品は内面側を向くようになります。今タイプA、タイプBのようにツバ部や幹部に窪みを設けますと暗闇でも指先の感触で方向がさだまります。タイプCはタイプBの孔にアルミ線を取り付けた場合を示し、必然的に内面側であることが分かります。このようにそれぞれの細工によって内面側を向くようにしておけば内面側には汚れ防止加工を施す必要は無くなります。

箱桁ウェブ足場用吊金具孔部シリコン栓詳細 5:1:1

この資料は開発当時の考え方でした。現在はかなり開発も進んでおりますので下図のように決めつける必要性はありません。

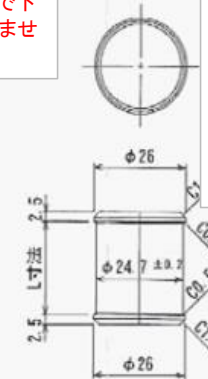
現在の製品仕様

(1)内面側表示が明白になっている場合は、汚れ防止加工は外面側のみとします。
(2)板厚プリント表示は高価です。現場作業が簡素化できる方向で幹長をグルーピング化し、取付場所が分るように袋詰めするなどして「プリント表示をなくす」。
(3)幹径及び幹長の製品精度は製品メーカーによって異なりますので表示しない。

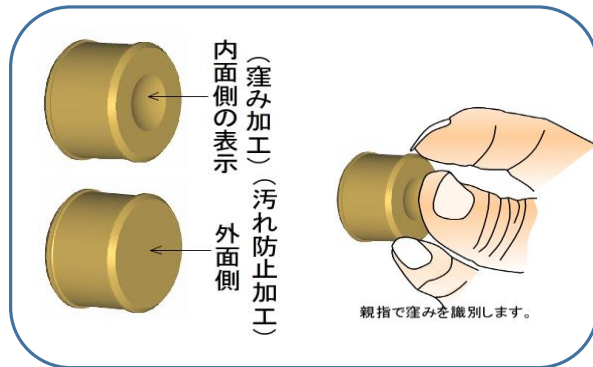
板厚をプリント表示する事

コーティング処理

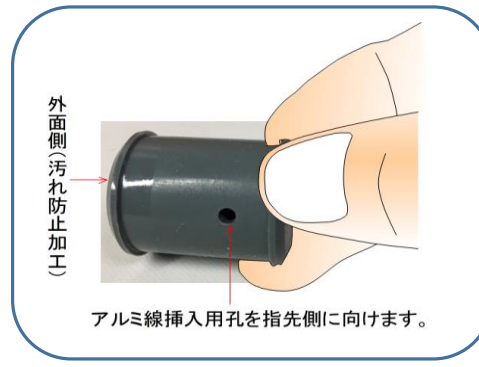
コーティング処理



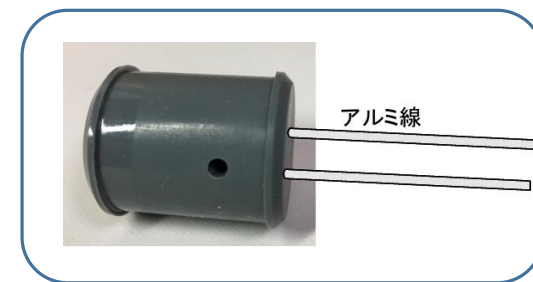
板厚	L寸法
13	13.5 ^{+0.5} ₋₀
14	14.5 ^{+0.5} ₋₀
16	16.5 ^{+0.5} ₋₀



タイプA：窪み付き製品



タイプB：幹部の孔付き製品



タイプC：アルミ線付き製品